

平成 17 年度

おおご・みやぎ・かすかわの自然

前橋市自然環境基礎調査
(大胡・宮城・柏川地区) 報告書



前橋市

はじめに

前橋市は、平成16年12月5日に大胡町、宮城村、粕川村と合併し、新しい「前橋市」として、さらなる飛躍を続けています。

新たに市域となった大胡・宮城・粕川地区は、赤城山の南面に位置し、地形は起伏に富み、水と緑に恵まれています。これらの豊かな自然は、わたしたちの暮らしに安らぎと潤いを与えるとともに、多くの動植物にとって、かけがえのない生息場所となっています。

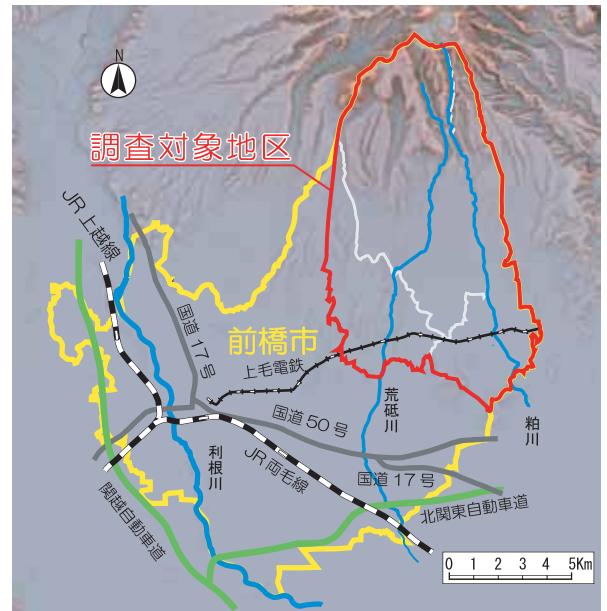
前橋市の旧市域では、平成9年度～10年度にかけて動植物のようすを調べました。そして、この結果は、前橋市環境基本計画の策定（平成12年）や、環境の保全と創造に関するさまざまな施策の実施などに活かされてきました。しかし、社会情勢の変化や、合併による市域の拡大などを受けて、環境基本計画の見直しが必要となりました。

そこで、平成17年度、大胡・宮城・粕川地区において、旧市域と同様に動植物の調査を行いました。このパンフレットは、その調査結果を紹介し、3地区の自然環境の特徴を皆様にわかりやすくお伝えするものです。

大胡・宮城・粕川の位置と地形

赤城山の南面に位置する大胡・宮城・粕川地区は、旧市域と比べて起伏に富む地形を含んでいます。北部の荒山（1,571m）周辺は険しい山地となっており、3地区の中から南部にかけては、なだらかな山麓地となります。

3地区の代表的な河川である荒砥川と粕川は、赤城山を北から南へ駆け下りるように流れています。



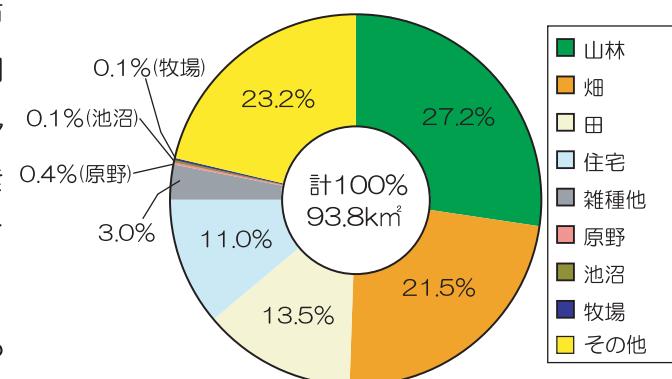
調査対象地区の位置

国土地理院発行の50mメッシュデータを使って作成※1

大胡・宮城・粕川の土地利用状況

大胡・宮城・粕川地区の総面積は93.8km²で、前橋市の総面積の約40%を占めています。3地区の土地利用別の面積割合をみると、山林が27.2%ともっとも多く、2番目が畑の21.5%、3番目が田の13.5%と続きます。特に宮城地区は、山林の占める割合が多くなっています（約50%）。

旧前橋市域における山林の割合（1.8%）に比べると、いかに3地区の緑が豊かであるかがわかります。



3地区の土地利用別の面積割合

調査の方法

各地区にいくつかの調査地点を設け、現地調査を実施するとともに、その結果を補足するための既存資料調査と聞き取り調査を行いました。また、市内全域を対象とした「市民調査」を行いました。

◆調査内容

調査内容		調査地区	調査時期			調査方法			
			春	夏	秋				
現地調査	植物	大胡・宮城・粕川地区	○	○		生育種を記録した。			
				○		航空写真を判読し作図した。現地調査で補正した。			
	動物		○	○	○	生体、死体、食痕、糞、足跡、巣、鳴き声から生息種を確認した。ネズミ用のトラップや無人撮影カメラも使用した。			
				○	○	生体、鳴き声から生息種を確認した。			
			○	○	○	生体、死体、鳴き声、抜け殻から生息種を確認した。			
	は虫類・両生類			○		生体、鳴き声から生息種を確認した。捕虫網による採集、ライトトラップ調査、ペイトトラップ調査も行った。			
				○		投網、タモ網、定置網により生体を捕獲し、生息種を確認した。			
				○	○	優れた水辺景観を探索した。			
	その他			○	○	各地区から1箇所の池沼を選定し、採取した水を持ち帰って、室内で水質を測定した。			
				○	○	巨樹・巨木の生育状況を記録し、写真を撮影した。			
			※5			既存資料から、動植物、名所、史跡、景観、地形に関する情報を収集した。			
既存資料調査			※5			3地区周辺の自然環境について精通された有識者の方々に聞き取りを行い、動植物に関する情報を得た。			
聞き取り調査			※5						
市民調査	カブトムシ・クワガタ(甲虫)調査	市全域		○		カブトムシやクワガタなどの種類、個体数、生息環境、分布、体長を調査した。			
	サクラの健康診断と紅葉調査			○		ソメイヨシノなどの健康状態、紅葉の進み方を調査した。			

※2 ネズミトラップ調査のみ。

※3 カエル類の鳴き声調査のみ。

※4 本調査では魚類以外の水生昆虫類、甲殻類、貝類などを水生生物と呼んでいる。

※5 既存資料調査および聞き取り調査は季節に関係なく行った。



●植物調査



●哺乳類調査（足跡確認）



●鳥類調査（ルートセンサス）



●は虫類・両生類調査（ルートセンサス）



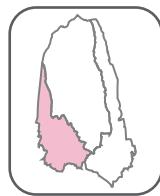
●陸上昆虫類調査（ライトトラップ）



●魚類・水生生物調査（定置網）

おおごの自然

大胡地区は赤城山の山麓に位置します。北部はスギ植林や耕作地が混在し、寺沢沼、寺沢川、大胡ぐりーんふらわー牧場などがあります。荒砥川が流れる南部は、市街地・住宅地と、それをとりまく耕作地からなり、千貫沼などがあります。



◆大胡北部

山麓地の緩斜面が広がり、もっとも広い面積を占めるのは畠地です。寺沢川が削った谷には谷戸田※1がつくられ、その周辺の斜面には、帯状にコナラ林やスギ植林が分布しています。

植物 275種を確認しました。谷戸田では、さまざまな水田雑草や湿地性の植物を確認しました。

動物 哺乳類8種、鳥類24種、昆蟲類272種、魚類5種、水生生物13種を確認しました。谷戸田では、多くのは虫類・両生類を確認しました。また、里山でみられる哺乳類も多く確認しました。



おもな確認種	
植物	シラカシ、コナラ、シロダモ、ヌルデ、コオニタビラコ、ヨシ
哺乳類	ジネズミ、アズマモグラ、アカネズミ、カヤネズミ、ハツカネズミ、タヌキ、イタチ、ハクビシン
鳥類	カツブリ、キセキレイ、セグロセキレイ、ウグイス、エナガ、メジロ、スズメ、カケス、コジュケイ、カオジロガビチョウ
域	トカゲ、カナヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、アズマヒキガエル、アマガエル、ニホンアカガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル
昆蟲類	オオヤマトンボ、ヒメアメンボ、ノコギリクワガタ、コミスジ
両生類	モツゴ、トウヨシノボリ
水生生物	アメリカザリガニ、オオヤマトンボ、タイコウチ、マツモムシ、ヒメゲンゴロウ

調査地点のようす

大胡でみられる生き物たち



●ヨシ



●タヌキ



●ヒバカリ



●トカゲ



●トウヨシノボリ



●シュレーゲルアオガエル



●ノコギリクワガタ



●タイコウチ



●モツゴ



●シマドジョウ



●ムクロジ
推定樹齢300年以上のムクロジ（大胡神社）。



●ケヤキ
樹高20m、幹周約3.5mのケヤキ。大胡小学校の校庭にあり、校歌にも歌われる。

	よこざわ せきとうば	県重
1	おおごじょうし	県史
2	ほりこしこふん	県史
3	おおごじんじや	

1	大胡神社のムクロジ
2	大胡小のケヤキ

● 旧所・名跡・史跡
県重
県指定
重要文化財
史跡
● 巨樹・巨木

◆大胡南部

おもな確認種	
植物	カナムグラ、スミレ、ヤプラン、アオカモジグサ、スズメノテッポウ、ツルヨシ
哺乳類	アズマモグラ、コウモリ類の一種、アカネズミ、タヌキ、イタチ、ハクビシン
鳥類	カツツブリ、カワウ、カルガモ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、スズメ
は虫・両生類	トカゲ、カナヘビ、アマガエル、トウキョウダルマガエル、シュレーゲルアオガエル
陸上昆虫類	コシアキトンボ、シマアメンボ、ハンノヒメコガネ、キアゲハ
魚類	モツゴ、ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、トウヨシノボリ
水生生物	カワニナ、シマイシビル、ミズムシ、スジエビ、チラカゲロウ、ウルマーシマトビケラ

山麓地と砂礫台地からなる緩斜面が広がり、荒砥川沿いの市街地・住宅地をとりまくように田畠がつくられています。南部の千貫沼周辺には、まとまったコナラ林やスギ植林がみられます。

植物 246種を確認しました。市街化が進んでおり、全確認種数に対する帰化植物※2の割合が3地区内でもっとも高くなりました。

動物 哺乳類6種、鳥類30種、は虫類2種、両生類3種、陸上昆虫類221種、魚類5種、水生生物30種を確認しました。森林を必要としないコウモリ類やイタチなどの哺乳類を確認しました。また、千貫沼では多くの水鳥を、荒砥川では多くの魚類と水生生物を確認しました。

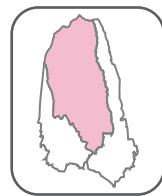


調査地点のようす

※2 帰化植物：明治以降に外国から持ち込まれた植物のうち、野生化した植物。

みやぎの自然

宮城地区は、赤城山南面の山地から山麓に位置します。北部は急峻な地形で森林が多く、
赤城神社、管広沼、赤城南面千本桜などがあります。中部から南部はなだらかな山麓地で、
耕作地と植林地などがみられ、ぐんまフラワーパークなどがあります。



◆宮城北部

おもな確認種	
陸域	アカマツ、コナラ、ヤマブキ、ヤマツツジ、ヨモギ、ホウチャクソウ
	アズマモグラ、ノウサギ、アカネズミ、イタチ、ニホンイノシシ、ニホンジカ
	キジバト、コゲラ、ヒヨドリ、ヤブサメ、ウグイス、サンコウチョウ、ホオジロ、カケス
	カナヘビ、アオダイショウ、アズマヒキガエル、ヤマアカガエル、シュレーゲルアオガエル
	ヒガシカワトンボ、カブトムシ、ルリボシカミキリ、ヤマキマダラヒカゲ
	ヤマメ、カジカ
	サワガニ、フタスジモンカゲロウ、ヒガシカワトンボ、ダビドサナエ、オニヤンマ、ミルンヤンマ
水域	

山地の急峻な地形で、斜面下部から谷部にはスギ植林が、斜面中部から上部にはアカマツ植林がみられます。大穴川沿いでは、水際までスギの植えられたところが多く、草地や耕作地はほとんどみられませんでした。

植物 302種を確認しました。ほとんどが人工林ですが、小規模な水路が多数存在することから、林内に渓流性の植物がみられました。

動物 哺乳類6種、鳥類21種、は虫類2種、両生類3種、陸上昆蟲類151種、魚類2種、
水生生物14種を確認しました。植林地には餌が少ないため、あまり多くの種を確認できませんでした。



調査地点のようす

◆宮城中部

おもな確認種	
陸域	コナラ、ヤマツツジ、ミゾカクシ、ヒメムカシヨモギ、ホウチャクソウ、ツルヨシ
	アズマモグラ、ノウサギ、アカネズミ、ニホンジカ
	キジバト、コゲラ、セグロセキレイ、モズ、シジュウカラ、ホオジロ、スズメ、カケス、オナガ、ハシボソガラス
	トカゲ、カナヘビ、ヒバカリ、アマガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル
	ハグロトンボ、ヒグラシ、ミヤマカミキリ、クロヒカゲ
	オニヤンマ、ノギカワゲラ、モンキマメゲンゴロウ、ガガンボ属の一種、ユスリカ科の一種
水域	

山麓地の緩斜面が広がり、住宅地と畠地が混在します。中央に流れる荒砥川がU字型の谷をつくり、川沿いにはコナラ林やスギ植林がみられます。

植物 326種を確認しました。植物の生育環境が多様で、確認した種数は3地区内でもっと多くなりました。

動物 哺乳類4種、鳥類17種、は虫類3種、両生類4種、陸上昆蟲類186種、水生生物7種を確認しました。

確認した種数は少なめで、特に哺乳類と鳥類の種数は3地区内でもっとも少ない結果となりました。7月末から8月にかけて発生した土石流で荒砥川が荒廃し、魚類は確認できませんでした。



調査地点のようす

◆宮城山岳部

おもな確認種	
陸域	植物 ミズナラ、サラサドウダン、アズマシャクナゲ、トウコクミツバツツジ、フデリンドウ、ススキ、ミヤコザサ
哺乳類	ニホンザル
陸上昆蟲類	アキアカネ、ナキイナゴ、キツツヤハナカミキリ、アサギマダラ

荒山山頂に近く、急峻な地形で、ミズナラ林が約9割を占めています。切り立った尾根頂部では、高木林が発達せず、草地や低木林がみられました。

植物 180種を確認しました。確認種の多くが山地性の植物であり、山奥であるため帰化植物はみられませんでした。

動物 地上昆蟲類調査のみ実施し、226種を確認しました。森林のほとんどがミズナラ林であることから、広葉樹林に生息する蛾類を多く確認しました。

宮城でみられる生き物たち

Map of the Miyagi Mountain Area showing various locations marked with numbered circles (1-5) and green dots. Locations include the Mount Araki Plateau, Oshiro River, Kankobayashi Marsh, and Kubotan River. Various animals are shown in photographs corresponding to these locations.

○アズマシャクナゲ ●アズマヒキガエル ●ツチガエル ●カブトムシ

○アマガエル ●アカネズミ ●ヤマメ

○櫃石 **○赤城神社の本殿、内宮殿、中門および惣門** **○阿久沢家住宅**

○大穴のブナ **○たわらスギ** **○三夜沢のブナ** **○赤城神社のマツ並木** **○阿久沢家のイチョウ**

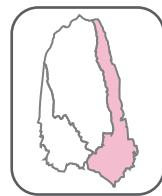
○ 旧所・名跡・史跡
国指定
県指定
重要文化財
史跡

○ 巨樹・巨木

●たわらスギ
赤城神社中門前の3本のスギの大木。推定樹齢約1000年で、県の天然記念物に指定されている。

かすかわの自然

粕川地区は、赤城山南面の山地から山麓に位置します。北部は急峻な地形で森林が多く、粕川、不動滝、滝沢温泉などがあります。南部はなだらかな山麓地で、住宅地と、それをとりまく耕作地からなり、粕川温泉元気ランドなどがあります。また、この地区は大林沼（室沢新沼）をはじめ、大小さまざまな池沼が点在しています。



◆粕川北部

山地の急峻な地形で、約5割がコナラ林、約3割がスギ植林です。西端に流れる粕川が深い谷をつくり、その川沿いには小規模な河畔林がみられます。また、尾根には帯状にアカマツ植林があります。

植物 276種を確認しました。尾根線、斜面、溪流などの地形にあわせてさまざまな森林が分布しており、林内の植物相が豊かでした。

動物 哺乳類8種、鳥類21種、は虫類2種、両生類6種、陸上昆虫類158種、水生生物5種を確認しました。特に哺乳類はカワネズミ、テンなどの山地性の種を含め、大胡北部と並んで3地区内でもっと多くの種数を確認しました。7月末から8月にかけて発生した土石流で粕川が荒廃し、魚類は確認できませんでした。

おもな確認種	
植物	オノエヤナギ、コナラ、ムカゴイラクサ、シラネセンキュウ、ヤマツツジ、ススキ
哺乳類	カワネズミ、アズマモグラ、ノウサギ、ニホンリス、アカネズミ、タヌキ、テン、ニホンジカ
鳥類	ヤブサメ、オオルリ、ヤマガラ、シジュウカラ、カケス、ハシブトガラス
は虫・両生類	カナヘビ、ヤマカガシ、アズマヒキガエル、タゴガエル、ヤマアカガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、カジカガエル
陸上昆虫類	ウスバキトンボ、オオカマキリ、クルミハムシ、ミヤマカラスアゲハ
水域	サワガニ、ヒメゲンコロウ、マルガムシ、力科の一種、ユスリカ属の一種



調査地点のようす



●クスノキ

推定樹齢約100年のクスノキ。月田小学校の校庭に位置する。



●月田のモチノキ

推定樹齢300年以上のモチノキ。言い伝えによると、1691年に移植されたとある。

大室流れ山群

赤城山の大爆発で噴出した岩屑などが、山麓に運ばれて堆積し、さまざまな形の丘を形成したもの。

- ① 鏡手塚古墳 県史
- ② 檀塚古墳 県史
- ③ 膳城跡 県史

- ① 月田小のクスノキ 旧所・名跡・史跡
- ② 月田のモチノキ 県指定史跡

● 旧所・名跡・史跡
● 県指定史跡
● 巨樹・巨木

粕川でみられる生き物たち



●ヤマツツジ



●アズマモグラ



●カナヘビ



●スジエビ



●ツルヨシ



●ヤマアカガエル



●ドジョウ



●ギンブナ

◆粕川南部

山麓地の緩斜面が広がります。住宅地をとりまくように田畠が分布し、大規模な森林はほとんどありません。^{かすかわ}粕川の両岸はコンクリートで護岸されています。

植物 287種を確認しました。おもに水田雑草や畑地雑草、河川の植物などの草本植物を確認しました。

動物 哺乳類4種、鳥類20種、は虫類2種、両生類2種、陸上昆虫類149種、魚類8種、水生生物20種を確認しました。
哺乳類、は虫類・両生類、陸上昆虫類は、いずれの種数も3地区内でもっとも少ない結果となりました。森林の少ないことがおもな要因として考えられます。
一方、粕川では多くの魚類と水生生物の種を確認しました。



おもな確認種	
植物	ザクロソウ、ミゾカクシ、コセンダングサ、カゼクサ、ツルヨシ、アズマネザサ
哺乳類	アズマモグラ、アカネズミ、ハツカネズミ、イタチ
鳥類	カルガモ、ツバメ、セグロセキレイ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
は虫・両生類	トカゲ、カナヘビ、アマガエル、トウキョウダルマガエル
陸上昆虫類	コオニヤンマ、ヒメコガネ、キスジミゾドロムシ、ヤマトシジミ
魚類	ウグイ、モツゴ、コイ、ギンブナ、ドジョウ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、トウヨシノボリ
水生生物	スジエビ、チラカゲロウ、ダビドサナエ属の一種、ナベブタムシ、コガタシマトピケラ属の一種、ウルマーシマトピケラ



調査地点のようす

河川の貴重種



●コアジサシ
環境省：絶滅危惧Ⅱ類
群馬県：準絶滅危惧



●タゴガエル
環境省：なし
群馬県：注目



●ホトケドジョウ
環境省：絶滅危惧ⅠB類
群馬県：絶滅危惧Ⅱ類



●サワガニ
環境省：なし
群馬県：準絶滅危惧



●マシジミ
環境省：なし
群馬県：準絶滅危惧



●ゲンジボタル
環境省：なし
群馬県：絶滅危惧Ⅱ類



●ノギカワゲラ ▶
環境省：なし
群馬県：準絶滅危惧

●ムラサキトビケラ
環境省：なし
群馬県：絶滅危惧Ⅱ類

湿地の貴重種



●ハンゲショウ
環境省：なし
群馬県：絶滅危惧Ⅰ類



●ミズマツバ
環境省：絶滅危惧Ⅱ類
群馬県：絶滅危惧Ⅰ類

選定基準 環境省：改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物（レッドデータブック）およびレッドリスト

森林の貴重種



●カジカ

環境省：なし

群馬県：準絶滅危惧



●ヒラマキミズマイマイ

環境省：なし

群馬県：注目



●カヤネズミ

環境省：なし

群馬県：絶滅危惧Ⅱ類



●オオタカ

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

群馬県：準絶滅危惧



●サンコウチョウ

環境省：なし

群馬県：絶滅危惧Ⅱ類



●オオムラサキ

環境省：準絶滅危惧

群馬県：準絶滅危惧



●ニイニイゼミ

環境省：なし

群馬県：注目



●カヤネズミ

環境省：なし

群馬県：絶滅危惧Ⅱ類

●ニホンアカガエル

環境省：なし

群馬県：絶滅危惧Ⅱ類

●トウキョウダルマガエル

環境省：なし

群馬県：絶滅危惧Ⅰ類

市民調査

前橋市では、毎年身近な動植物をテーマとした市民による調査を行っています。平成17年度は夏と秋に「カブトムシ・クワガタ（甲虫）調査」と「サクラの健康診断と紅葉調査」を実施しました。多くの市民が調査員となり、観察会で調査方法などの基礎知識を学んだのち、決められた期間中に市内で調査を行いました。

■ カブトムシ・クワガタ（甲虫）調査

カブトムシ、クワガタなどの甲虫の種類や生息場所を調査しました。

宮城総合運動場に隣接する「どんぐりの森」（鼻毛石町）で開催した観察会では、カブトムシ、コクワガタ、シロスジカミキリなどがみつかりました。



● 観察会のようす

果物トラップ（バナナを発酵させたもの）には、カブトムシやコクワガタなどが集まっていました。

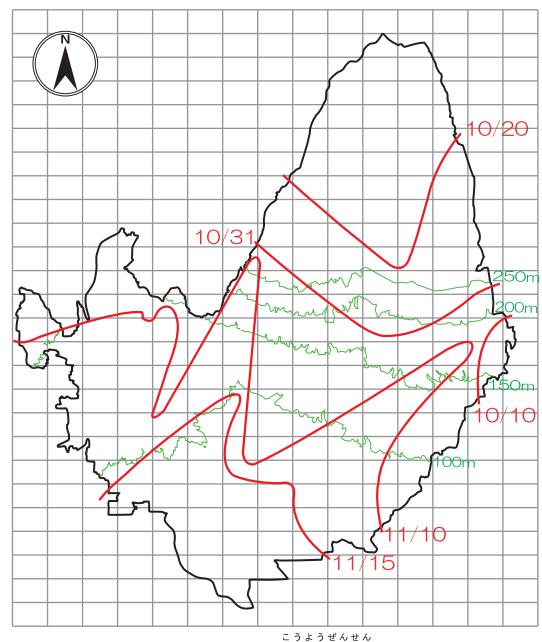
■ サクラの健康診断と紅葉調査

身近にあるサクラの木の健康状態と、紅葉がどのように進んでいくかを調べました。



● 観察会のようす

赤城南面千本桜において、ソメイヨシノなどを観察し、調査方法を学びました。



● サクラの紅葉前線

おおご・みやぎ・かすかわの自然

前橋市自然環境基礎調査（大胡・宮城・粕川地区）報告書 概要版

発行日：平成18年3月

発行：前橋市

住所：〒371-8601 群馬県前橋市大手町二丁目12番1号

電話：027(224)1111

表紙の写真

中央：山麓から赤城山を眺めたものです。写真の形は前橋市全域を示しています。

下段左：大胡ぐりーんふらわー牧場（大胡地区）

下段中央：ぐんまフラワーパーク（宮城地区）

下段右：不動滝（粕川地区）